

# 学力向上フロンティアスクール中間報告書

|       |     |
|-------|-----|
| 都道府県名 | 長野県 |
|-------|-----|

学校の概要（平成15年4月現在）

|     |              |     |     |      |     |     |
|-----|--------------|-----|-----|------|-----|-----|
| 学校名 | 長野県真田町立真田中学校 |     |     |      |     |     |
| 学年  | 1年           | 2年  | 3年  | 特殊学級 | 計   | 教員数 |
| 学級数 | 4            | 4   | 4   | 2    | 14  | 27  |
| 生徒数 | 139          | 125 | 125 | 9    | 398 |     |

## 研究の概要

### 1. 研究主題

「確かな学力」の向上を目指した学習指導の創造

### 2. 研究内容と方法

#### (1) 実施学年・教科

全学年・全教科  
 (理由) 学力向上フロンティアスクールとして全教育活動で実施。

#### (2) 年次毎の計画

|        |  |
|--------|--|
| 平成15年度 | <p>テーマ 「確かな学力」の向上を目指した学習指導の創造</p> <p>研究の見通し(仮説)</p> <p>生徒の実態をもとに各教科でつきたい力を決めだし、これを「ねらう確かな学力」と捉えた。この力が身に付くための手だてを日々の教科指導において工夫していけば、確かな学力が身についていくだろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1)つける力の決めだしと「確かな学力」の向上のための教材開発，場面の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒のとらえとねらう「確かな学力」の決めだし</li> <li>・自己表現力(含むコミュニケーション力)の向上が図れる教材開発，学習場面及び指導の工夫</li> </ul> |
|--------|--|

|        |   |
|--------|---|
| 平成15年度 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選択教科の教材開発，学習場面及び指導の工夫</li> </ul> <p>(2)個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少人数学習（習熟度別学習）</li> <li>・ 全職員によ協力的な指導体制（TT授業等）</li> <li>・ 学校外の専門家の参加・協力（外部講師授業等）</li> <li>・ 全校一斉ドリルの実施</li> <li>・ 朝読書の取り組み</li> </ul> <p>(3)学力の評価を生かした指導の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 評価規準の見直しと修正</li> <li>・ 評価方法の工夫改善（定期テスト分析，学習カード・評価表の工夫等）</li> <li>・ 生徒による自己評価（自己評価カード）</li> </ul> |
|--------|---|

|        |  |
|--------|--|
| 平成16年度 | <p>テーマ 学びの心に灯をつける教師集団をめざして<br/>研究の仮説（仮）</p> <p>生徒一人一人の学ぶ姿からの「自己表出」を視点にしながら，各教科でねらう「確かな学力」を明らかにし，個に向けた指導や授業の工夫・改善の実践を積み重ねていけば，学習意欲が向上し各教科でねらう「確かな学力」の向上が図れるだろう。</p> <p>ねらう「確かな学力」の獲得についての仮説を各教科毎設定し，実証する。</p> <p>&lt;数学科の例&gt;</p> <p>生徒の実態に応じて問題を提示したり，ステップを小さくして活動させたり，考えさせたりすることが生徒の追究意欲を高め，数学的な見方や考え方を伸ばすことにつながるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1)評価を生かした年間カリキュラムや学習指導過程の工夫改善</p> <p>(2)個に応じた指導のあり方の研究（個別指導・個人追究のさせ方と個への支援のあり方等。）</p> <p>(3)「表現力」「自己表出」についての研究</p> <p>生徒の『自己表出（表現）』の機会を探り，生徒一人一人の実態をさぐり，その実態を視点にして，授業にどう生かしていくかを考える。</p> <p>(4)賞賛場面をつくる学習指導案づくり</p> |
|--------|--|

(3) 研究体制

フ口係会 - 教科主任会

|

校長 - 教頭 - 教務会 - 職員会

## 平成15年度の研究成果及び今後の課題

### 1. 研究成果

- (1) 生徒は学ぶ意欲を十分持っており，工夫した指導があれば，確かな学力を身につけていけることが確認できた。
- (2) 学習評価の面から見たとき，生徒の伸びる力を十分伸ばしきれていないことが明確になった。
- (3) 生徒の表現力に視点をあて，各教科ごと自分の考えを発表する場面を増やした。国語科ではパネルディスカッションを，特別活動でシンポジウム等を実施してきた。その結果，少しずつではあるが生徒は自信を持って自己表現できるようになってきた。特に，シンポジウムの試みは家庭や地域から賞賛され，大きな成果を上げた。

### 2. 今後の課題

- (1) 生徒の実態に即した指導法，指導過程の研究
  - ・学力の伸びを図る実態調査等の実施
  - ・生徒の学びの実態に即した，指導や支援の工夫
    - 「自己表出」(発言・作品づくり・発表・つぶやき等)を生かして-
  - ・自己評価について，指導に生かせる評価カードや支援の工夫
- (2) 家庭学習を含めて，個人追究の仕方の指導
- (3) どの生徒(特に学習意欲に乏しい生徒)もが，「今日の授業で～を知った」「～ができた」「～を考えた」等を実感できる授業づくり。

### 学力把握のための学校としての取組

- (1) 中学校学力実態調査(県教育委員会作成)の実施 (平成15.10月)
- (2) 定期テスト実施後のテスト分析による評価方法の見直し(国・社・数・理・英)  
定期テスト終了後，各教科でテスト分析を実施。問題毎のねらう力，成就率やその誤答例を分析し，生徒の学力定着の実態をつかむための資料としてきた。このテスト分析結果を全職員で検討し，生徒の実態や必要な学力について話し合い，複数の教科で連携して指導することの重要性や選択教科の活用など以後の指導に生かしてきた。

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

( 15年度 )

1 P T A 保護者へ説明会

日時：15年7月 学校体育館保護者に向けて学力フロンティア事業の趣旨説明

2 研究授業・授業研究会実施

3 学力向上推進協議会への参加

( 16年度 )

1 研究成果普及のための活動予定

・地域開放参観日等に概要説明

・学校通信(町内回覧)に掲載

2 研究授業・授業研究会の実施

3 公開研究発表会

・研究冊子作成

4 学力向上推進協議会等への参加

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校

【学校規模】  3学級以下  4～6学級  
 7～9学級  10～12学級  
 13～15学級  16学級以上

【指導体制】  少人数指導  T・Tによる指導  
 その他(外部講師等)

【研究教科】  国語  社会  数学  理科  
全教科実施  外国語  音楽  美術  技術・家庭  
 保健体育  その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無

(県より少人数指導教員として加配あり。フロンティア事業としてはなし。)